

「つながり 支え 認め合い いきいきと かがやけるまち 多摩」の実現に向けて

原案可決

あすたま・維新
藤條 たかゆき

この将来都市像をどう市民の日々の生活の中で結実させていけるかが問われています。

市税収入も、好調な市況を背景として目下上向いてはいるものの、歯止めの掛からない少子高齢化による社会保障費の増加は以前として進行しており、多摩市でも公共施設やインフラの更新・改修なども控えていることから、改めてアセットマネジメントを見直す段階にきています。

多摩市の防災力の底上げを促す予算を！

年頭に発生した能登半島地震を受け、市民の皆さんの防災に対する関

心や機運も高まっています。これを教訓として、また機会としても捉えて、多摩市の防災力をもっと底上げていく力に変えていかなければなりません。

「木造住宅耐震化促進事業」について

耐震改修工事の費用助成等を行う本事業について、これまで1980年以前の基準の住宅を対象にしていたことが、「2000年基準」と呼ばれる建築基準法改正以前に建てられたグレーゾーン住宅にも対象が拡大されるが、予算ベースでの増額が見られなかった。

市の姿勢を示すためにも、防災対策への積極的な予算処置を明確に打ち出すべきではなかったか。まだまだ物足りなさを感じる。

将来の世代に多摩市の環境を責任をもって渡すことができるまちづくりを

否 決

ネット・社民の会
岸田 めぐみ

多摩市気候非常事態宣言を表明してから4年

「環境との共生」が重点テーマの一つである第六次総合計画やみどり環境基本計画に取組み始める年になります。気候非常事態宣言の目標達成に向けて着実に進める予算編成とすることが求められています。

販売所、駐車場等の設計委託費に修正案提出

都の保全地域である連光寺六丁目湿地の集水域として、およそ1,700

m²の土地を2億4千万円で2021年度に取得。保全計画で農地活用が望ましいとされ、「農業公園」として活用を決め、基本設計委託料が計上されました。

しかし基本設計にあたって前提となる公園の理念には、本来土地の取得目的であった湿地の保全については何も触れられていません。「2023年度内に作成する構想に明記される」と答弁がありましたが、いまだ議会にも非公表で、構想策定過程に環境の専門家が全く関わっていないこともわかりました。基本設計前に、環境の専門家と連携できる体制づくりや公園に関わる方々が意見交換をする場を設けることが必要です。

気候変動と海洋汚染から安全安心を守るために

否 決

青空りっけん
しらた 満

大雪で中和田通りの倒木で電柱が折れ通行止め、乞田川の桜の大木も倒れました。市内のナラ枯れに3千万円以上の予算を割くが原因は虫の移動によるものです。他市連携以前に市独自の安全管理を迅速に。中央大学の研究報告書で指摘されている市内河川に流出のマイクロプラスチックを減らすには、公共施設人工芝を影響の少ないものに。

「環境との共生」の歩みを止めるな！

原案可決

多摩みらいの会
しのづか 元

修正案が提出された、連光寺・若葉台里山保全地域内の農業公園については、都の保全計画書で「農地としての保全」がすでに明確に示されています。希少生物が生息する湿地環境保全のためにも、無駄な足踏みをせず、農業公園の整備に向けての歩みを進めるべきです。

予算を評価。危機意識の向上を

原案可決

志政会
藤原 マサノリ

財政の硬直化が進む中、義務的経費といえども聖域化することなく、ゼロベースで事業を見える化・定量化し、無駄の排除と優先順位を図り、最小の経費で最大の効果を生む創意工夫を。また、災害への対策には物足りなさが残ります。市民の命を守る施策をもっと重視すべきです。

税金の使い道は市民の暮らしの安心安全が優先

否 決

多摩の風
折戸 小夜子

能登半島地震発生から3か月。改めて首都直下型地震を想定した防災減災の在り方を見直しが必要。災害時でのトイレ問題は最大の課題。早急な検討を。多摩センター駅周辺については、京王プラザホテルの撤退やバスロータリーの老朽化が顕著です。早急な対応が必要。

「初志貫徹」を期待します

否 決

夢まち会議
岩永 ひさか

かつて阿部市長は「あれもこれも求める時代から、必要なものを選択し、地域で豊かさを分かち合える社会をめざし、不退転の覚悟で改革に取り組む」としていました。その初心に立ち戻り、市民に正直に向き合い、説明責任を果たしてほしいと思います。

